

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 29 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02772

研究課題名(和文) 触察の方法論の体系化と視覚障害者の野外空間のイメージ形成に関する研究

研究課題名(英文) Creating a Theory of Tactile Learning: How the Visually-impaired Can Form the Image of Outdoor Space

研究代表者

廣瀬 浩二郎 (Hirose, Koujiro)

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・准教授

研究者番号：20342644

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：2021年9月～11月、国立民族学博物館において特別展「ユニバーサル・ミュージアム - さわる！ “触” の大博覧会」が開催された。研究代表者の廣瀬は実行委員長として、分担者の山本は実行委員として、本展の企画に携わった。特別展では「風景にさわる」というセクションを設け、科研プロジェクトの一環で行なったワークショップの成果物(陶芸作品)を展示した。また、本展の図録には廣瀬が「触察の方法論」について、山本が「視覚障害者の空間イメージ形成」について、論文を寄稿している。この図録は科研プロジェクトの成果に基づく出版物であると同時に、日本におけるユニバーサル・ミュージアム研究の基本文献と位置付けることもできる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国立民族学博物館の特別展「ユニバーサル・ミュージアム」は、コロナ禍の状況下であえて大規模な「さわる展示」を実施する試みだった。そのため、会期中にはさまざまな新聞、テレビ番組等で本展の趣旨・概要が好意的に紹介された。各方面で非接触が強調される中で、さわることの大切さを積極的に訴えた本展の社会的意義は大きい。視覚障害の当事者が実行委員長となって運営に当たる本展は世界的にも類例がなく、新たな「ソーシャル・インクルージョン」の可能性を提示した実践研究としても評価できる。4年間の科研プロジェクトの成果を通じて、日本発のユニバーサル・ミュージアム研究を国際的に発信する土台ができたといえるだろう。

研究成果の概要(英文)：From September to November 2021, the special exhibition “Universal Museum: Exploring the New Field of Tactile Sensation” has been held at the National Museum of Ethnology. Dr. Hirose (the leader of this project) was the organizer, and Dr. Yamamoto (the partner of this project) was a committee member of the special exhibition. There was a section “Touch the Scenery” in the special exhibition. At this section, we have displayed some works of ceramic art based on the workshop of our project. Dr. Hirose's thesis about the theory of tactile learning, and Dr. Yamamoto's thesis about the image of outdoor space by the visually-impaired are printed in the catalog of the special exhibition. This catalog is not only the the publication of our result of the project, but also the essential report of the research on “universal museum” in Japan.

研究分野：文化人類学

キーワード：視覚障害者 ユニバーサル・ミュージアム 触察 野外活動

1．研究開始当初の背景

(1)視覚障害者の触察学習に関しては、盲学校などの教育現場で実践の蓄積があるが、その体系的な研究はまだ十分になされていない。各地の盲学校の資料室に残される史資料の調査研究も未だ不十分な状況である。特殊教育・特別支援教育の枠にとどまらず、学際的な研究の実施が急務となっている。

(2)触察の方法論については、理数系の教材、社会科の地図などを用いる実証実験が主流であり、野外活動の調査はこれまでほとんど実施されてこなかった。視覚障害者を対象とする野外での実験の実施に当たっては安全確保、人権への配慮等が必要となるため、従来は試みられるケースが少なかった。また、インクルーシブ教育の進展により、盲学校の児童・生徒数が減少し、まとまった数の視覚障害被験者を得にくいという現状もある。

2．研究の目的

(1)本研究では学生のみならず社会人、あるいは先天的な全盲者と中途失明者など、さまざまなタイプの視覚障害者を被験者として、野外での触察行動（手指・身体の使い方）を調査する。これにより、触察の方法論に関する包括的な研究が可能となる。本研究の成果は、地域の学校に通う視覚障害児童・生徒対象の触図読解指導、中途失明者のリハビリなどへの応用も期待できる。

(2)野外活動としては具体的に滋賀県の陶芸の森（信楽）、および国立民族学博物館において、まちあるき・観光などのワークショップを企画・実施する。これにより、視覚障害者の歩行誘導システム開発、野外活動のユニバーサル化に向けて、研究の基礎となるデータを収集・整理することができる。ユニバーサル・ミュージアム（誰もが楽しめる博物館）に関するこれまでの研究蓄積と合わせて、日本から新たな「ユニバーサル論」を国際的に発信することも可能となるだろう。

3．研究の方法

(1)陶芸の森の展示室において形象土器の触察ワークショップ、および信楽町の窯元などを訪ねるまちあるきワークショップを行う。「まち」の空間イメージ形成について、晴眼者と視覚障害者からインタビュー調査し、その違いを比較検討する。視覚中心で外界を把握する晴眼者に対し、触覚ベースで世界をとらえる視覚障害者の五感活用術を明らかにすることで、共生社会を築くヒントが得られるはずである。

(2)国立民族学博物館の特別展「ユニバーサル・ミュージアム」で屋外展示された石の作品を用いて、触察ワークショップを開催する。ワークショップに参加した多様な人々からアンケートを取るとともに、視覚障害者を中心に、一部の参加者の行動をビデオ撮影し、動作と探索方法の関係を分析する。ビデオ撮影に際しては、押す・たたく・なでる・持ち上げるなど、具体的な手指の動きにフォーカスし、その動作に伴う発話も記録する。

4．研究成果

(1)信楽での触察ワークショップの成果をまとめ、国立民族学博物館の特別展図録で報告した。視覚中心の従来のまちあるき・観光に対して、触覚による情報収集の豊かな可能性を提示することができた。

(2)「空間イメージ形成」については、コロナ禍のため、実験・検証が不十分となり、当初目標を達成できなかったが、今後につながるいくつかの貴重な知見を得て、2023 年度以降、本研究プロジェクトをさらに発展させる準備が整った。本研究の成果と課題を踏まえ、「視覚障害者の野外活動、空間イメージ形成」をテーマとする本格的な新プロジェクトを申請する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 巻 26
2. 論文標題 「未開の知」に触れるー2020東京オリパラを迎える前にー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 KG人権ブックレット	6. 最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 健常者とはだれか 「耳なし芳一」を読み解く	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 2020年度差別の歴史を考える連続講座講演録	6. 最初と最後の頁 77-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 巻 55
2. 論文標題 コロナ禍の先へー全盲の僕が発見した「六つの手」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 こころ	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 廣瀬浩二郎 渥美公秀 八木絵香	4. 巻 -
2. 論文標題 「できない」を「できる」に変えていく力	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 <つながり>を創りだす術 続・対話で創るこれからの「大学」	6. 最初と最後の頁 143-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 巻 -
2. 論文標題 「発建」の喜びーそこにラーメン屋がある！ 座頭市流フィールドワーカー「野生の勘」の勘の戻し方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 おいしいはおもしろい ニッポンの食をささえる素敵な会社	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 巻 26
2. 論文標題 「未開の知」に触れるー2020東京オリパラを迎える前にー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 KG人権ブックレット	6. 最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 『無障礙博物館』概念：展示觸覺文化的意義和可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立台湾歴史博物館編 『文化平權在亞洲：博物館教育新趨勢國際論壇』	6. 最初と最後の頁 79-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 巻 Vol.3
2. 論文標題 副音声と副触図	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マンガミュージアム研究会編 『マンガ展評論』	6. 最初と最後の頁 4~12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 自分史と人類史の往還	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東海大学課程資格教育センター編『思想史と人類学の対話』	6. 最初と最後の頁 30～41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 コロナ禍と博物館
3. 学会等名 言語・音声理解と対話処理研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 世界をつなぐユニバーサル・ミュージアム
3. 学会等名 比較文明学会大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 触発の技法と可能性
3. 学会等名 身心変容技法研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 『点字』的私論、『私』的點字論
3. 学会等名 日本発達心理学会大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 「合理的配慮」再考 - 2020オリパラを迎えるに当たって -
3. 学会等名 日本特殊教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 多様な人々の博物館利用 視覚障害者のアクセシビリティ向上を考える
3. 学会等名 多様な人々の博物館利用 視覚障害者のアクセシビリティ向上を考える（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirose Kojiro
2. 発表標題 The Universal Museum Makes a world without Borders
3. 学会等名 Toward a “ Universal Museum ” : (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hirose Kojiro
2. 発表標題 Significance and Methods of the Tactile Culture Exhibition
3. 学会等名 - (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 「合理的配慮」再考
3. 学会等名 公開シンポジウム「日本におけるユニバーサル・ミュージアムの現状と課題 2020オリパラを迎える前に」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 触文化展示の意義と方法
3. 学会等名 国立台湾歴史博物館 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kojiro Hirose
2. 発表標題 Tactile Culture in Japan
3. 学会等名 Camberwell College of Arts (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kojiro Hirose
2. 発表標題 Hands of a Goze
3. 学会等名 University of East Anglia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kojiro Hirose
2. 発表標題 Universal Museum Design in Japan
3. 学会等名 Merton College, Oxford University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 162
3. 書名 それでも僕たちは「濃厚接触」を続ける！	

1. 著者名 清水 展、小國 和子編 (廣瀬浩二郎)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 職場・学校で活かす現場グラフィー	

1. 著者名 廣瀬浩二郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 伏流社	5. 総ページ数 290
3. 書名 触常者として生きる-琵琶を持たない琵琶法師の旅	

1. 著者名 嶺重慎、廣瀬浩二郎、村田淳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 知のスイッチ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	山本 清龍 (Yamamoto Kiyotatu) (50323473)	東京大学・大学院農学生命科学研究科(農学部)・准教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Toward a "Universal Museum" (ミシガン大学)	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Museum Lecture Series(ミシガン州立大学)	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------